

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300857		
法人名	株式会社 スエトミ		
事業所名	グループホームどりーむまつばせ		
所在地	熊本県宇城市松橋町松橋1619-1		
自己評価作成日	令和7年2月20日	評価結果市町村受理日	令和7年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1		
訪問調査日	令和7年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設23周年を迎えた コロナかで外出や面会の制限から少しずつ開放されてきている。職員不足の中にも職員が生き生きと働けるようにするよう心がけている。職員の声に耳を傾けるようにしている。優秀な外国人の技能実習生も受け入れている。隣接の保育園からも園児が訪問してくれて交流を持てることで入居者さん方も喜んでおられる。高齢化社会で選ばれる施設になるようにご本人やご家族が安心して頂ける施設になるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、小学校もほど近い住宅街に位置し、同一敷地内に姉妹ホームと保育園がある。日常的にホームに居ながらにして園児の声が聞こえ、遊ぶ姿を見ることが出来る環境にある。時には園児の来訪で、握手したり一緒に歌ったり、また、入居者が保育園のクリスマス会の予行練習の見学に行くなど、交流している。食事はこだわりを持ってホームで職員が作り、彩りもきれいで美味しい家庭的な食事が提供されている。入居者も、米研ぎ・野菜切り・エビの背ワタ取りなどの下ごしらえやお盆拭きなど、できることを一緒に手伝っている。コロナ禍以降外出の機会は減少したが、年2回の阿蘇や天草への日帰り旅行は継続して実施されている。明るく穏やかな笑顔溢れるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームで過ごしたいと思える声掛けや【今を大切に私が私らしくあるために・・・】を理念に掲げ職員間で共有して実践に繋げている。	「自立支援」「寄り添うケア」「チームケア」等5項目の理念を掲げており、各棟の玄関に大きく掲示している。新人研修や毎月のミーティングで、理念の内容について再確認し、浸透を図っている。理念に沿った計画作成を意識しており、職員で共有して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	キッズランドの園児・各棟入居者様・職員で地域行事もゴミ拾いに参加した。小学校への雑巾贈呈や、散歩時のあいさつで交流を図っている。	同一敷地内に法人内の保育園があり、行き来して入居者と園児の交流が行われている。また、入居者・職員・保育園児一緒に地域のごみ拾いに参加したり、入居者が手縫いした雑巾を継続して小学校へ贈呈しており、喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族の面談時に認知症への理解を深めて頂けるように認知症の特性や対応方法などを話し合えば場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回 運営推進会議を開催し、利用者の状況報告、活動実績などを報告している。参加者との意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、家族・区長・民生委員・老人会長・市担当者等の出席を得て、同一敷地内の姉妹ホームと合同で行っている。活動や入居者状況の報告後、「身体拘束」「ヒヤリハット」「感染症」など、職員勉強会の内容を運営推進会議で発表したり、クリスマス会などホームの活動を見学してもらい、委員の理解を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の職員も参加して頂き、いろいろな意見交換をしている。今年度は運営指導や集団指導もあり 市の職員との交流や意見を聞くことができた。	運営上の疑問点などは、市に出向いたり電話で気軽に相談している。今年度は運営指導や集団指導等があり、意見交換など行っている。運営推進会議へ担当職員の出席もあり、ホームの状況を把握している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三か月に1回の身体拘束委員会で身体拘束があった場合話合っている。また職員の勉強会も年に2回実施している。	法人内で虐待防止検討/身体拘束等適正化委員会を3ヶ月ごとに開催し、各棟の現状報告を行っている。また、年2回勉強会を行い、身体拘束をしないケアについて理解を深め、実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のための取り組みとして職員の配置やメンタル面での支援を行い虐待防止の勉強会等を通じて虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症の方への支援として自立支援制度や成年後見制度の理解を図り、必要な場合は市町村に相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時契約や解約時 又は改正等の場合は書面と電話やメール等で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けている。要望等は外部評価のアンケートや日頃の電話対応や訪問時に意見を伺うようにしている。	面会時に近況を報告し、意見・要望を尋ねているが、運営上の意見等はほとんどない。毎月、写真を沢山掲載した「ドリーム新聞」を発行し、家族に郵送してホームの様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで職員ひとりひとりの意見を聞くようにしている。そのほかでも意見や提案をできるだけ反映させるようにしている。	毎月、棟ごとに社長・ホーム長・全職員が参加してのミーティングを行っている。連絡事項等を共有し、主として個別のケアについて話し合っており、職員の意見・提案等を反映してよりよいケアに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善手当でもキャリアパス要件が必要のためそれに即しながら職場環境や条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上のため法人内勉強会は毎月ミーティング時の行っている。また希望する職員へは研修を受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は現在 管理者の集まりでブロック会を通じて交流は図られている。ブロック会が主催する勉強会に参加して同業者との交流を図っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様とご家族様が入居前に見学に来て頂き面談にて意向を伺い、安心してサービスを提供できるよう全職員に説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関しては、ご家族がどのようなことで困惑されていたか、耳を傾けホームでのサービスに対する情報を明確にし家族の協力も得て関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の思いを確認し、状況をふまえて改善に向けた支援の案を可能な限り対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業等できる方は職員と一緒にいき、ご家族が持っている知識や能力を発揮して頂けるようともに協力し合える環境を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はデッキ越しや玄関前での面会を通してご家族に日頃の状況を伝え、本人とご家族との絆が深まる環境作りを整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会及び外出について緩和され本人様npご友人、ご近所だった方も面会ができており又電話でのやり取りなど継続できるように取り組んでいる。	昔の職場の同僚が定期的に面会に来たり、家族が定期的に来て入居者と一緒に外出する人もいる。以前は馴染みの人に会ったり、馴染みの場所に出かける個別支援も行っていたが、コロナ禍以降は行われていない。	入居者個々の馴染みの人や場所との関係継続支援の取組について、検討することも期待される。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方が和やかな雰囲気の中でテレビを見たりホームの行事に参加して頂いたりしてお互いの信頼関係を築いて頂ける様な支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様を最後までお世話できるように心がけてリル、ご家族の相談やご希望に添えるように努めている。退所後でもご家族が面会に来て下さる事もあった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションが取れる方に対しては本人の希望や意向を聞き、またご家族からの情報やアセスメント・日々の関わりの中で本人の表情や言動など把握し共有している。	思いを表現するのが困難な方は、目で合図したりうなずいたり表情や仕草から、意向を推測している。手作業が好きな人には新聞紙でゴミ箱を作ってもらったり、介護の仕事をしていた人は食事介助を手伝ってもらったりと、好きなこと得意なことなど継続してできるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やケアマネさんより情報をもとにスタッフが日頃からの生活を観察し、各自の集めた情報を共有し支援しその人らしく、その人に合ったリズムや環境を提供できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	あせすめんとや日々の記録を全職員で共有し本人の心身状態やできること等、現状を把握し職員間で情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当で毎月モニタリングを行い、ミーティング時に気づいた事や介護サービス計画を見直している。介護サービス計画を立てる際にはご家族から意見から意見や要望を聞き反映している。	入居後2週間程度は様子を見ながら全員で「らしさシート」「アセスメントシート」を記入し、習慣・現状、必要な声掛けやサポート、注意することなど話し合っって介護計画を作成している。その後は各担当が毎月モニタリングを行い、半年ごとに全員で評価・考察をして計画を更新している。入居者の能力を評価し、できることはできるだけ自分で行い、できないところを支援する計画作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を具体的に支援計画に記入し情報を共有している。また気づいた点があれば申し送り等にも記入し実践に活かしている。また食事量 排泄の記録も行い情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族の状況やその時々に応じてできるだけ満足して頂ける支援を行っている。レベル的に厳しくホームないでの食事会や室内レクリエーションの形式、キッズランドの園児たちとの交流で気分転換を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美化作業に参加している。またキッズランドの園児と定期的に行事で交流を図りふれあいを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居の際、本人、家族に希望のかかりつけ医を確認している。原則、ご家族に受診をお願いしているが緊急時はや移動介助が困難な場合はスタッフ同行で支援している。	かかりつけ医は、本人・家族の希望に沿い、現在は全員が協力医療機関としており、月2回の訪問診療を受けている。また、月2回の訪問看護で健康チェックを行っている。かかりつけ医は、同一敷地内の姉妹ホームに来た際にも立ち寄ってくれたり、入居者の異変時には往診も可能であり、密に連携して適切に医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職や月二回訪問看護を利用し、日ごろの個々の様子観察を行ってもらっている。体調変化や処方量を相談して適切なアドバイスをもらい、早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行き、本人様とご家族様の意向を聞き医療機関との情報共有を行う。入居者さんの機能低下が見られ入院が長引く場合は早期退院に向け医療との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルについてはご家族様と方向性を話し合いながら、主治医とご家族との連携を図り、情報や方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。	「ターミナルケアにおける指針」「ターミナルケア説明書」を整備しており、入所時に説明している。また、看取りが近づいた際には家族に状態について説明し、「ターミナルケア依頼受諾書」で意向を確認している。看取りにあたっては、計画を変更し、主治医・訪問看護・家族と連携して、意向に沿った看取りとなるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変を含む緊急時に備え、スタッフは心肺蘇生やAEDの使用方法など定期的な研修を受けており、事故発生時はその場にいるスタッフにて連携を図れるように努めている。AEDの研修にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。避難訓練、消火器の取り扱いの確認を行い、実際消火器を使った訓練を行った。常に防災意識を保つように努力している。BCPを作成し訓練も2回実施している。	年2回、姉妹ホームと合同で、主として夜間想定で火災避難訓練を実施している。うち1回は消防署の参加を得てアドバイスを受けている。感染症に関してBCP訓練も行っている。食料の備蓄は3日分確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれ人格や性格、認知症の症状の違いを理解して、個々に合った声掛けを心掛けている。特に入浴や排泄時には注意を払い、誇りやプライバシーに配慮した対応に努めている。	時折、赤ちゃん言葉を使ったり、強い口調で話す場面などが見られ、人格を尊重した言い方に改めるよう注意することもある。入浴・排泄介助時はドアを閉め、プライバシーに配慮するよう努めている。それぞれの背景や性格を把握し、誇りを損ねない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定出来るように落ち着いた雰囲気を作るように努めている。また自己決定出来ない利用者様に関してはご本人の気持ちを汲み取り家族と相談、希望を出来るだけ反映できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他の利用者の方と楽しくお話される方自分の居室でゆったりしたい方、一人ひとりの思いを最優先に自分のペースで毎日を楽しく過ごせる様希望に沿った支援をこころがけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で更衣が出来る方はお気に入りの服を楽しまれ、支援が必要な方は本人にお似合いの服や色を考えて提供している。朝、整髪等も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に利用者の能力に応じて料理や食器洗い、拭き等をして頂いている。利用者の方と献立を一緒に考えたり準備や食事の片づけと毎日の食事がおいしく楽しみなものになって貰えるよう心がけている。	食事は各棟でつくり、家庭的でおいしい食事を提供している。献立は、入居者と一緒に考えるなどして食事当番が決め、毎日3食分の買い物に行っている。入居者は米研ぎ・野菜切り・エビの背ワタ取りなどの下ごしらえやお盆拭きなど、できることを手伝い、職員は入居者と共に同じ食事を摂っている。おせち料理や雛祭りのちらし寿司など、行事食も提供し、楽しい食事となるよう心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立を工夫している。一人ひとりの食事量や形状にて提供している。水分摂取が難しい方にはゼリーにて提供し少しでも摂食できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア用品(スポンジ・口腔用ウェットシート)を活用し、自力で出来ない方は介助を行う。毎食後に声掛け口腔ケア促す。拒否の方もいるため時間をおいて促したり、スタッフ交代して支援行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握し、定期的なトイレ誘導を行い、失禁を減らし清潔に過ごせるように努めている。またトイレでの排泄を基本にその方に応じた介助を行い、機能低下をされないように支援している。	排泄は完全に自立している人もいるが、ほとんどは日中は時間や動作を見てトイレ誘導している。夜間は、トイレ誘導の方・ポータブルトイレ使用の方・オムツ交換の方など、それぞれの状態に応じて対応している。その時々適した排泄用品について常に検討し、快適な排泄となるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、繊維物、乳製品をバランスよく摂取してもらえるようメニューを工夫し、自然排便への取り組みを実施している。全利用者の排便状況の把握に努め、排便日数によって個々に応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望・タイミング又は体調に合わせて支援を行っている。季節によってはゆず湯、しょうぶ湯等行い楽しく入浴して頂いている。	入浴は週3回実施している。状態により、湯船に入れる方、シャワー浴の方が半々くらいとなっている。ゆず湯や菖蒲湯を行ったり、入浴剤を使用することもある。急かせずゆっくり入ってもらい、おしゃべりをしたり、歌ったりする人もおり、楽しい入浴となるよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の個々の身体状況に応じて本人の意向確認の上、午前または午後ソファーやベッドで休憩時間を設けている。馴染の方と一緒に過ごしてもらうまで安心感が持てるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容を理解して、服薬時は間違いがないように日付と名前の確認を行っている。確実に飲まれるまで見守りしている。服薬後は症状の変化が内科を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意なことを把握し家事作業の手伝いや役割を持つことで、力を発揮して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃は敷地内や近隣への散歩や、時には買い物に出かけて気分転換を図っている。年に2回は日帰り旅行を実施している。普段はなかなか行けない場所へのおでかけ、季節の移ろいや観光を楽しんで頂いている。	日頃はホーム周辺を散歩したり、編み物をしたい人と毛糸を買いに行くなどの支援を行っている。今年度は、お花見・初詣・年2回の日帰り旅行などの外出を楽しんでいる。	今後は家族の協力等も得ながら、個別の外出支援も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時5万円預かり、その都度ご家族に補充して頂いている。少額を自己管理できる方については所持してもらっている。必要物品の購入を希望された時は職員が支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を利用している方には充電や利用方法のサポートを行い、電話やご家族様への連絡も要望等スタッフが仲介するようにして風通しの良いやり取りが出来るように心掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は日々清潔保持に努めており、ホール内の温度調整や換気はもちろん季節や行事に合わせたディスプレイや彩りを入れ、目で見て楽しむことができる心地よい空間を心掛けている。	共用空間はゆったりとして清潔感がある。テーブルと椅子・ソファ・テレビなどが置かれ、壁には入居者を紹介する写真や活動の写真、書初めの習字、季節の貼り絵などが掲示されている。入居者はテレビを見たりお茶を飲んだり、洗濯物を畳んだりと自由に過ごしており、穏やかな日常が伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前やデッキ側にソファを設置し気の合う利用者同士でテレビを視聴されたりお話をされたりスタッフと一緒に家事作業をして頂いている。利用の意向や体調におうじて思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたもの、ご家族の写真を飾り、居心地の良い環境作りをしている。日々の掃除や定期的なリネン交換支援など清潔保持に努めている。	各居室には、整理ダンス・椅子・仏壇などを配置し、家族の写真や小物などが置かれ、すっきりと整理されている。清掃も行き届き、それぞれが安心して居心地よく暮らせる部屋づくりがみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂では滑り止めマットやシャワーチェアを使用し安全面の配慮を行っている。また居室にはご本人の写真や名前が記載されているプレートを下げたりタンスには収納する場所がわかるようにシールを張ったり資格にも分かりやすい配慮している。		